

環境サステナビリティ 活動報告書



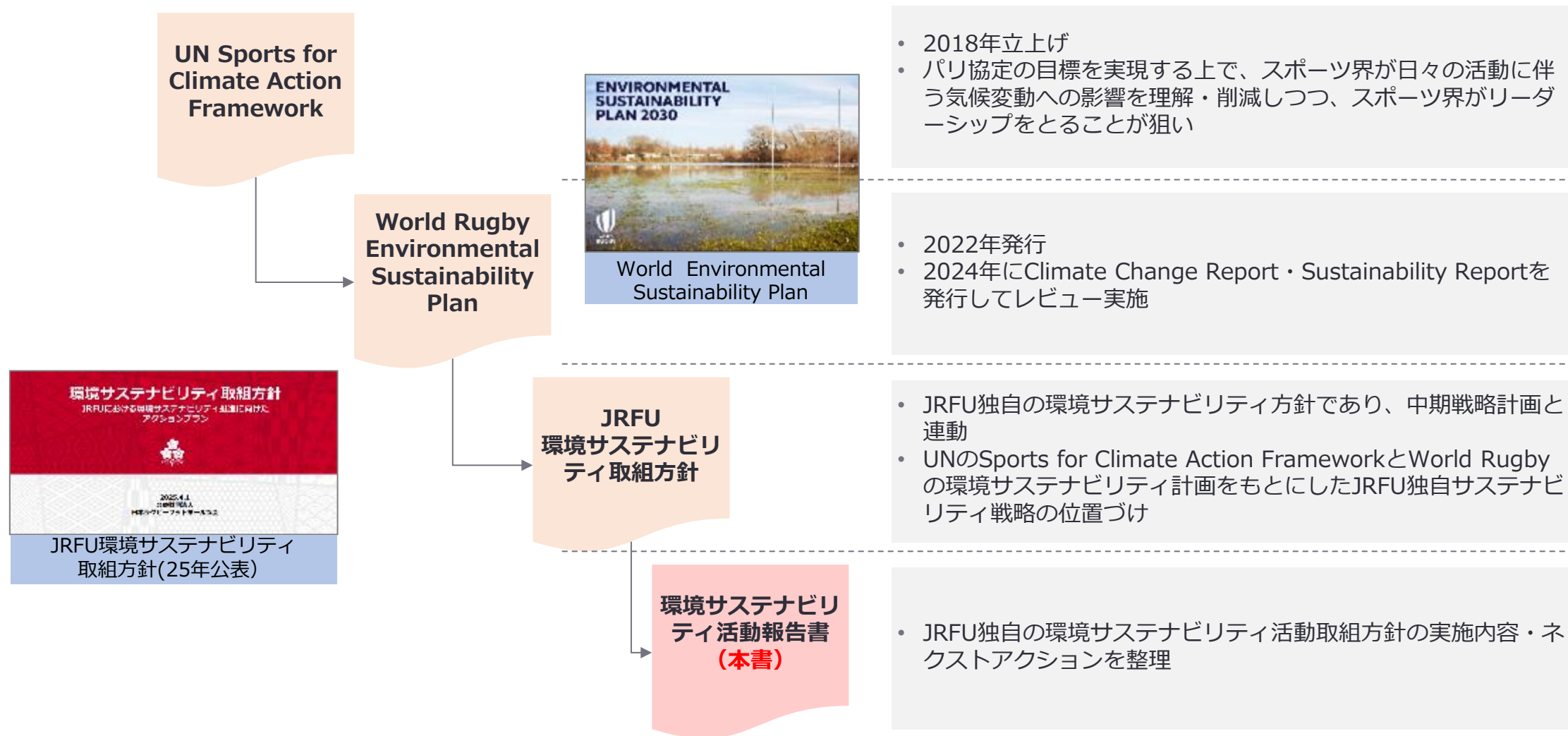
2026年05月13日

公益財団法人
日本ラグビーフットボール協会

章	目次
1	環境サステナビリティ活動の背景と目的
2	GHG排出量の算定結果と今後のKPI・アクション

World Rugby(以下：WR)の環境サステナビリティ計画を策定に合わせて、JRFUでは独自の環境サステナビリティ取組方針を策定。本書は取組方針に基づいた実施報告として位置づける

本書の位置づけ



参考：UN・World Rugby・JRFU

WRは環境サステナビリティ計画にて「気候変動への対応」「サーキュラーエコノミーの実現」「生物多様性保護」の3点を優先テーマとして設定

WRにおける優先テーマ

キーワードをハイライト

Climate Action (気候変動に対する アクション)

【目的】ラグビーの競技として環境サステナビリティを担保し、ラグビーをプラットフォームとして気候変動に対するアクションを啓蒙していくこと

【ターゲット】

- **カーボンフットプリント**をオフセットに頼らず2030年までに50%低減
- ラグビーW杯・セブンスシリーズを2030年までにClimate Positiveにする

Circular Economy (環境に良い素材・ 製品の利用・再利用の促進)

【目的】スポーツ・エンタメの大会で排出させるごみ・廃棄物の削減・持続可能な大会運営を実現

【ターゲット】

- 2030年までに全てのWR主催者がイベントの企画から実行までCircular Economyの考え方を取り入れる
- **使い捨て商品**を特定し、2023年までに50%・2027年までに80%削減
- **電子製品**の耐用年数を2倍に拡大・2025年よりイベント後も使用可能な機器

Protecting the Neutral Environment (生物多様性保護)

【目的】生物多様性維持や絶滅危惧種の増加の危機についてラグビーを通じ啓蒙・発信

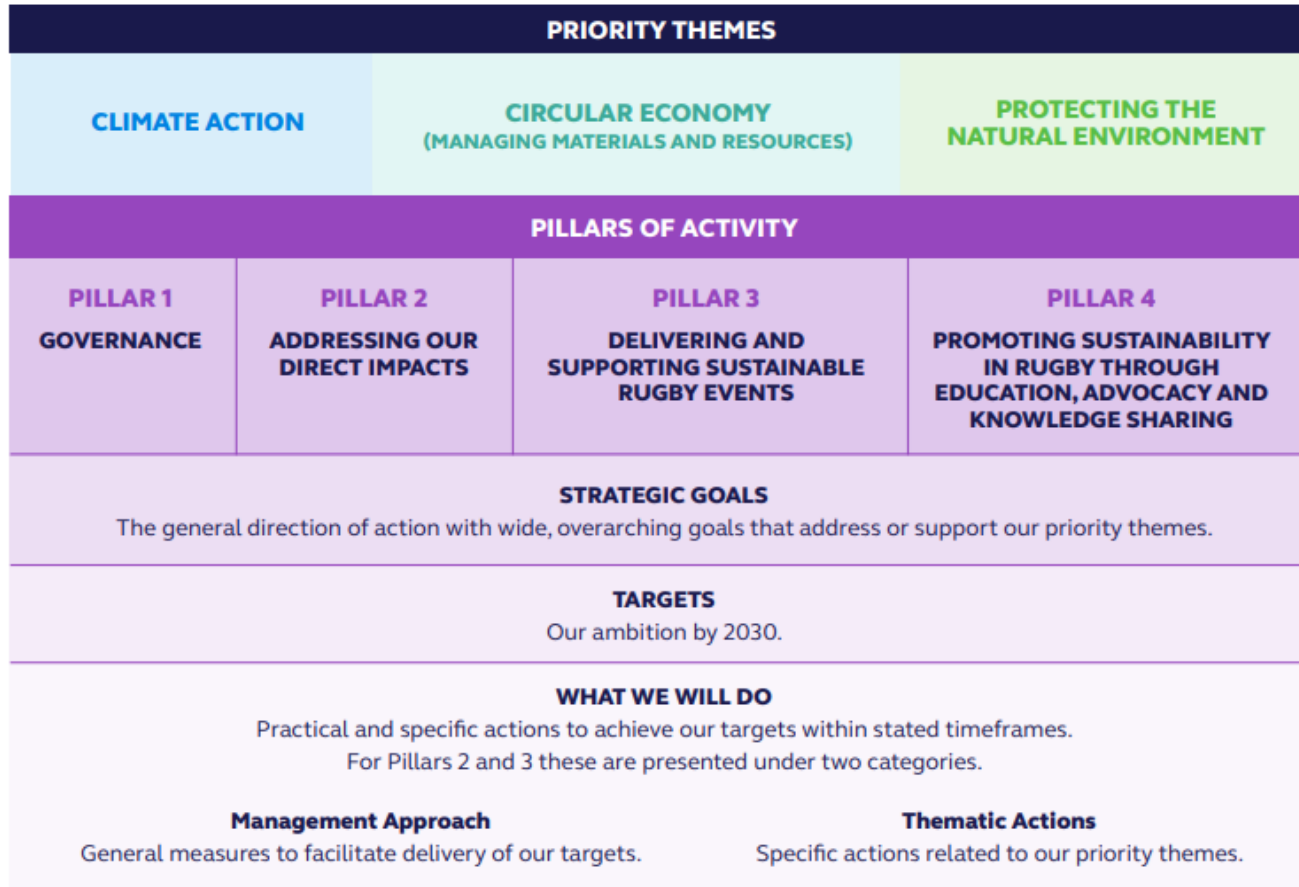
【ターゲット】

- **森林破壊を招く製品・絶滅危惧種と関係する食べ物の利用をゼロ**にすること
- 2030年までに全ての主要WR大会の開催地域において、**環境負荷・生物多様性への影響**についてポジティブな効果を出すこと

参考：World Rugby Environmental Sustainability Plan 2030

WRは4つの活動軸Pillarを設定し環境サステナビリティの取り組みを推進。 JRFU含むハイパフォーマンスユニオンに対して独自の活動方針と進捗報告を求めている

WR Environmental Sustainability Planの構造



優先テーマ(Priority Themes)

WRの独自サーベイ・リサーチをもとに優先テーマを以下3テーマに選定

- 気候変動へのアクション
- 循環型経済の実現
- 自然環境保護

活動軸 (Pillars of Activities)

◆ Pillar 1 : ガバナンス

サステナビリティが全ての意思決定の検討課題

◆ Pillar2 : 直接インパクトへの対処

- 2030年までに排出量を50%低減
- 興行の使い捨て・短期アイテムの削減
- 電子機器のリプレースを2倍以上に拡大

◆ Pillar3 : サステイナブルなイベント開催

- 2030年までに排出量を50%低減
- 開催地域の自然環境への影響を可視化

◆ Pillar 4 : 教育やノウハウ共有を通じたラグビーにおけるプロモーション

- 全てのハイパフォーマンスユニオンは25年までに独自のサステナビリティプランを策定・モニタリングと進捗報告実施することを求める

参考 : World Rugby Environmental Sustainability Plan 2030

JRFUは「A:UN Sports for Climate Action Framework署名」「B:中期戦略計画においてサステナビリティを重点項目に追加」「C:環境サステナビリティ取組方針策定」を実施

2024.10

A

■ UN Sports for Climate Action Frameworkへ署名

- WRの環境サステナビリティプランに沿って、世界のラグビーユニオンの中で最も早く署名

2025.3

B

■ 環境サステナビリティを重要項目と位置付けた「Japan Rugby中期戦略計画2025-2028」公表

- ラグビーの価値を高める指標として、環境サステナビリティの推進を明記
- GHG排出量把握の実施等をアクションアイテムとして追加

2025.4

C

■ 環境サステナビリティ取組方針を策定

- UNの署名を通じて、具体的なアクションを整理
- 短期的に検討体制の整備と現状把握としてGHG排出量測定の実施、中長期的にKPI達成に向けたGHG排出量削減や外部ステークホルダーとの連携強化を掲げた

㊤ 2024年10月にJRFUは、UNのフレームワークに署名。
WRの環境サステナビリティレポートにてJRFUの活動がCase Studyとして取り上げられた



CASE STUDY

53
65

TRAILBLAZING JAPAN RUGBY SIGNS SPORTS FOR CLIMATE ACTION FRAMEWORK

In October 2024, the Japan Rugby Football Union (JRFU) strengthened its commitment to environmental sustainability by signing the Sports for Climate Action Framework, becoming the first Japanese sporting body and the first national rugby union in the world to do so, with hopes that many others will soon follow.

The JRFU recognises the urgent need to minimise its environmental impact across all its operations, from the day-to-day management of the game, to organising and hosting rugby matches from the grassroots level to international test matches.

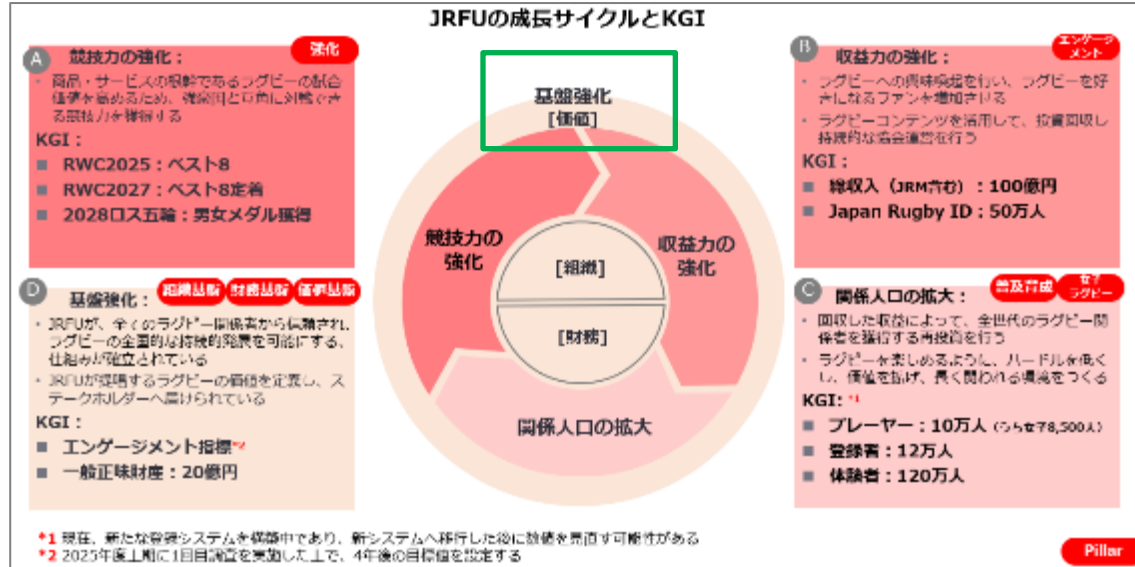
By March 2025, the JRFU will develop and publish its 'Environmental Sustainability Action Policy' based on the current state of Japanese rugby, outlining quantitative targets and plans for promoting sustainability across the nation. Updates on these sustainability efforts will be made available on the JRFU website and in annual reports.

World Rugby logo

参考：World Rugby Sustainability Report 2024

日本ラグビー中期戦略計画2025-2028において、重点領域(Pillar)「価値基盤」の項目として環境サステナビリティを重点項目に設定

JRFUの成長サイクルと重点領域



- Japan Rugby中期戦略計画では、JRFUの成長サイクルとそのサイクルを駆動するための重点領域を7つのPillarとして整理
- その領域の1つである「価値基盤」において、ラグビーの価値を高める要素として環境サステナビリティに関する活動を配置

価値基盤におけるアクションプラン

KPI	KPIを達成するためにキーとなるアクションアイテム	
(ラグビーの価値を高める) コアバリューに関わる概念整理	7-1 JRFUとしてのラグビーの価値の言語化	コアバリューに関わる概念整理 ・ コアバリューに関わる概念の整理・刷新化 JRFU100周年に向けたコンセプト策定・観測 ・ 設立から100年の歩みを通じて、ラグビーの価値とJRFUを表すコンセプトを再定義
(ラグビーの価値を守る) 不祥事案・事故事故:ゼロ	7-2 安全対策の実行とコンプライアンス遵守の徹底	ルールの見直し ・ 競技安全のためのルール改正 研修活動 ・ 安全意識・コアバリュー・インテグリティに関わる研修の実施
(ラグビーの価値を伝える) (2025年度設定)	7-3 UN Sports Framework 署名・推進	環境サステナビリティ推進体制の構築 ・ 環境サステナビリティ推進に関する組織化 ・ 日本代表選におけるCO2排出量を測定し、現状把握を行う ・ 現状の排出量をもとに環境サステナビリティ宣言に沿った削減目標を設定 D&I推進宣言に関わる取り組みの推進 ・ 女性活躍、障がい者雇用、LGBTQ+啓蒙活動
(ラグビーの価値を伝える) (2025年度設定)	7-4 ラグビーの価値に関わる信頼発信の実施	ラグビーの価値に関わる情報発信の実施 ・ 広報誌版及び国際誌版への反映させ、それぞれのステークホルダーに対して、効果的な情報発信を実施する

- アクションアイテムとして「UN Sports Frameworkの署名・推進」を記載
- JRFUとして排出量測定が初の取り組みであるため、本年度の結果を踏まえて目標設定を行う

◎ UN署名・中期戦略計画と連動した形でJRFUの環境サステナビリティ独自方針を整理し、公表。
 今年度はGHG排出量の現状把握とKPI設定を進める

	次項 短期(～2025年)	中期(～2028年)	長期(～2030年)
活動軸	<ul style="list-style-type: none"> 検討体制の整備 JRFUの現状把握・目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> 施策の実施・KPI評価・公表 外部ステークホルダーとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーと一緒に実現する環境サステナビリティ
組織・意思決定プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 組織規程改定(環境サステナビリティ主管組織の明確化) 環境サステナビリティのKPI設定(次期中期戦略計画) 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定プロセスに環境サステナビリティの観点を明示(ベンダー等) 意思決定基準の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域協会に環境サステナビリティ担当を設置 環境サステナビリティアワード実施
日々の業務調達	<ul style="list-style-type: none"> 調達品の棚卸・環境に配慮可能な領域を特定 調達基準の策定 削減計画の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> 環境にやさしい製品へリプレイス 職員の出張規程見直し 移動手段クリーン化 	<ul style="list-style-type: none"> パートナー企業の環境負荷低減製品の積極活用 リーグワン・地域協会への共有
大会運営	<ul style="list-style-type: none"> 興行時の排出量測定・現状把握 排出量の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> テストマッチ時の排出量定点観測 開催地・パートナー企業との協業による環境サステナブルな試合運営の実現 会場選定への基準設定・導入 	<ul style="list-style-type: none"> 対戦相手ユニオンとの取り組み共有 興行でのネットゼロ(ファン・相手国への環境負荷への対応)
重点活動エリア 啓蒙・評価・報告	<ul style="list-style-type: none"> テストマッチ会場等での啓蒙活動(自治体・パートナーとの連携) 環境サステナビリティに関する取組の進捗報告 選手からのメッセージ発信 	<ul style="list-style-type: none"> 各会場等での啓蒙活動(自治体・パートナーとの連携) 地域協会への環境サステナビリティ啓蒙活動の実施 アニュアルレポート内で評価結果を公表(2026年度～) 選手からのメッセージ発信/リーグワンチームとの連携 	

参考：JRFU 環境サステナビリティ取組方針

© JRFUでは2035年の男子W杯招致を目指すことを宣言。WRは開催国に環境サステナビリティ観点を重視することを記載しており、招致の観点でもサステナビリティの重要性が高まっている

WRがW杯開催国に求めるサステナビリティに関する基本方針

- **World Rugbyのサステナビリティ戦略に沿った基本方針**
 - オフセットに頼らないローカーボンでのイベント運営
 - 循環型経済の実現・廃棄物の最小化
 - 自然環境の保護
- **新規スタジアム建設の禁止**
 - 大会開催のための新規スタジアムや恒久的インフラ建設は、詳細な証拠に基づく正当性がない限り認めない
- **既存スタジアムのアップグレード**
 - W杯開催のために既存施設の改修・アップグレードは可能
- **環境にやさしいスタジアムの利用**
 - 高いサステナビリティ基準で運営されている施設を優先して利用（例：エネルギー管理システム、水資源保全措置）
- **自然環境への影響の評価・回避措置の実施**
 - イベント会場や運営活動に関連する自然環境リスクを評価し、汚染や自然保護地域への影響を回避する措置を採用

男子ラグビーワールドカップ2035招致活動を通じて発信したいメッセージ



「No SIDE SPIRIT」をメッセージに招致活動を推進

章	目次
1	環境サステナビリティ活動の背景と目的
2	GHG排出量の算定結果と今後のKPI・アクション

算定手法および準拠ガイダンス

✓ 準拠基準

GHGプロトコル

- ・コーポレート基準
- ・ Scope 3基準

📄 参考ガイダンス

- ・ サプライチェーンを通じたGHG排出量算定に関する基本ガイドライン
- ・ 会議・イベントにおけるカーボン・オフセットの取組のための手引き（環境省）

🕒 算定期間の定義

運営全般：設営開始～撤収完了

日本チーム：キャンプ地移動～解散

対戦チーム：往路自国出発～復路自国到着
(試合に関連しない日本での活動は除く)

使用した排出係数のデータソース

- ・ 組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース Ver.3.5
- ・ 温室効果ガス排出量算定方法・排出係数一覧（環境省）
- ・ 電気事業者別排出係数一覧（令和7年提出用）
- ・ 国土交通省公表 自動車燃費一覧（令和6年3月）
- ・ 会議・イベントにおけるカーボン・オフセットの取組のための手引き（Ver.1.0）

GHG排出量はJRFUの直接排出 (Scope1)・間接排出 (Scope2)・JRFUの事業活動に関連した排出(Scope3)の3つに区分される

GHGプロトコルとは

- 1998年に世界環境経済人協議会(WBCSD)と世界資源研究所(WRI)により開発された、GHG排出量算定・報告におけるデファクトスタンダード

上流

Scope 3

自社の活動に関連してサプライチェーン上流にいる他社が間接的に排出する温室効果ガス



(1)原材料



(2)資本財



(3)エネルギー
関連



(4)輸送・配送



(5)廃棄物



(6)出張



(7)通勤



(8)リース

自社

Scope 1

事業者自らによる
温室効果ガスの直接排出



燃料の燃焼・工業プロセス

Scope 2

他社から供給された
エネルギー使用による間接排出



電気、熱・蒸気の使用

下流

Scope 3

自社の活動に関連してサプライチェーン下流にいる他社が間接的に排出する温室効果ガス



(9)輸送



(10)加工



(11)使用



(12)廃棄



(13)リース



(14)フランチャイズ



(15)投資

算定対象試合は、試合会場の規模や立地等のバランスを考慮し、以下の男子15人制日本代表戦3試合を設定

算定対象試合（3試合）

日付	対戦カード	場所	来場者数
2025/6/28	Japan XV vs マオリ・オールブラックス	秩父宮ラグビー場 (東京都)	19,792人
2025/8/30	日本代表 vs カナダ代表	ユアテックスタジアム仙台 (宮城県)	11,187人
2025/10/25	日本代表 vs オーストラリア代表	国立競技場 (東京都)	41,612人

関係者・観客の移動・宿泊に関する排出量は、想定シナリオをもとに算定し、 会場のエネルギー利用は、一部を除き実績値をベースに設定

各項目の詳細定義と算定手法

関係者・観客

関係者等の移動・宿泊：

会場の立地条件等を踏まえて、移動距離や移動手段の想定シナリオを作成し算定。

観客の移動・宿泊：

来場者の移動手段や宿泊有無について想定シナリオを策定し、チケット販売情報等から統計的な推定を行い算定（Scope 3相当として計上）。

会場のエネルギー

エネルギー利用の算定：

スタジアム管理者から提供された実績値（電力・ガス等）の使用量情報をベースに算定。

推計値の活用：

実績データの取得が困難な一部の共用施設等については、面積比や稼働時間に基づく推計値を組み合わせることで補完。

注記：観客の移動については、主催者が直接管理できない排出源ではありますが、スポーツイベントにおける環境負荷の主要因であることから、Scope 3相当として計上しています

Total emissions for 3 games

3試合におけるGHG排出量算定結果

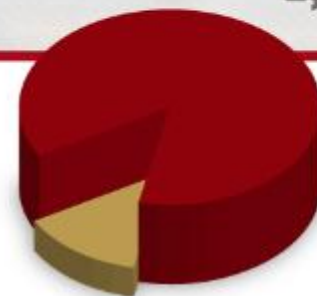
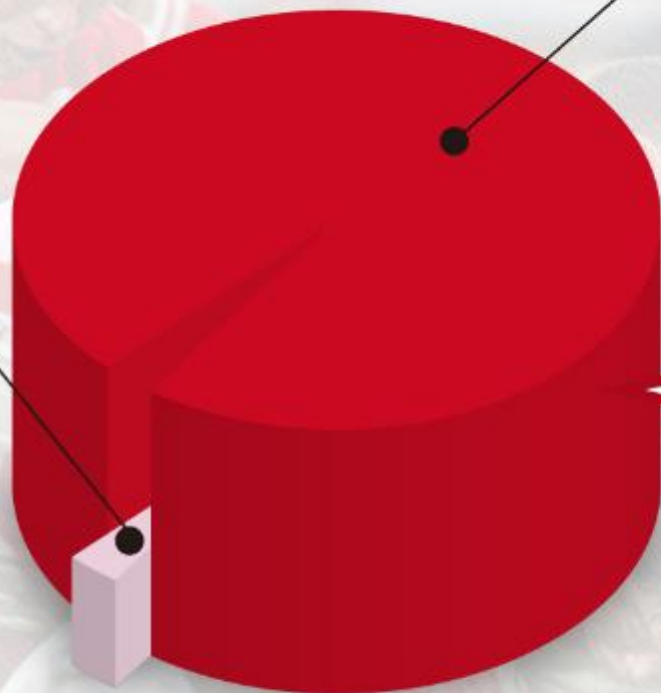
Scope 3 97.25%

1,328.057 t-CO2

Scope 1 & 2

2.75%

37.616 t-CO2



86.31%

1146.301 t-CO2

試合に関わる人の移動(ファン・選手・関係者)



13.19% 購入した製品やサービス



**2025.
6.28 sat**

秩父宮ラグビー場(東京都)

19,792名来場

Scope 1 & 2 2.705 t-CO2

Scope 3 283.591 t-CO2

合計 **286.295 t-CO2**



**2025.
8.30 sat**

ユアテックススタジアム仙台(宮城県)

11,187名来場

Scope 1 & 2 3.511 t-CO2

Scope 3 379.687 t-CO2

合計 **383.198 t-CO2**



**2025.
10.25 sat**

国立競技場(東京都)

41,612名来場

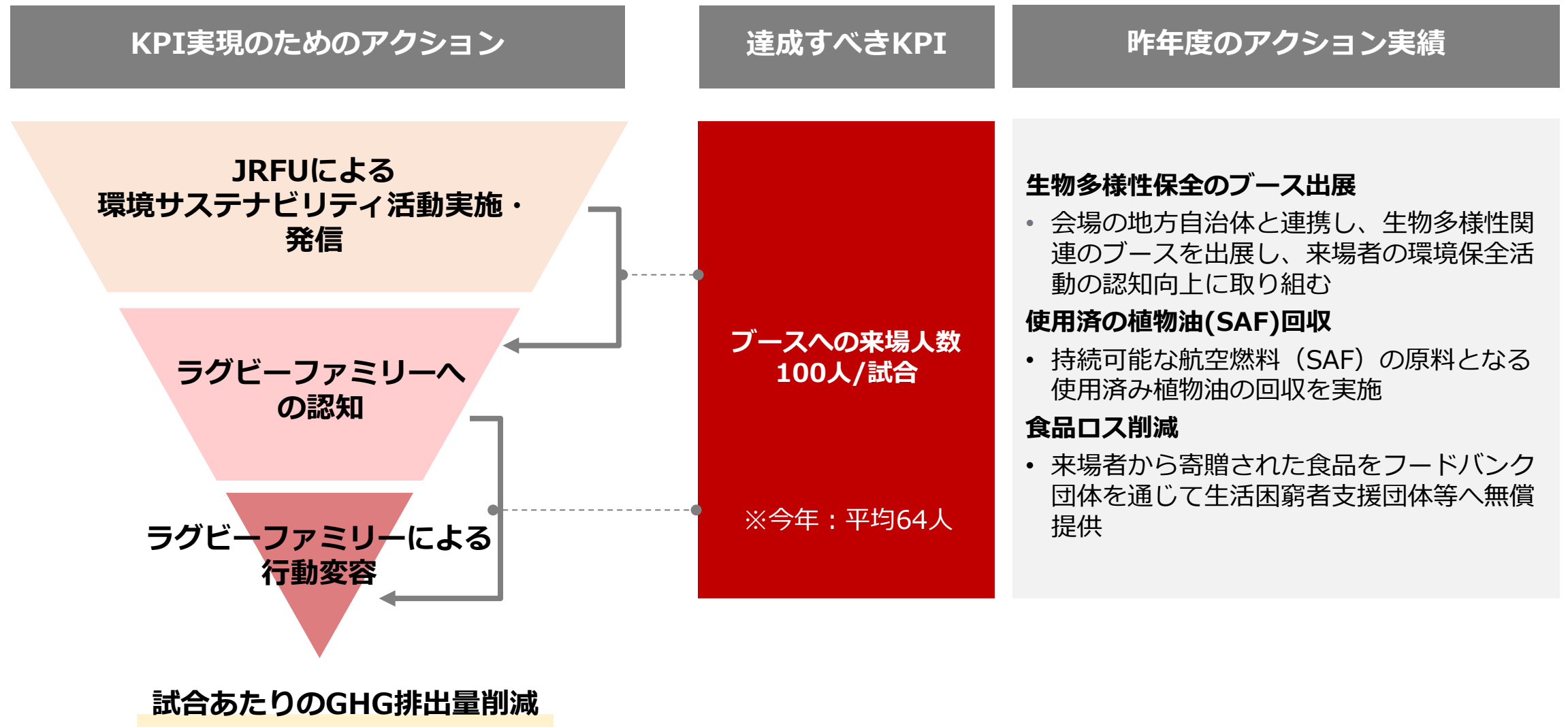
Scope 1 & 2 31.400 t-CO2

Scope 3 664.779 t-CO2

合計 **696.179 t-CO2**



JRFUはスポーツ中央競技団体として、来場者の環境サステナビリティ認知拡大・行動変容の促進が重要であると考え、代表試合時のサステナビリティブースの来場者数をKPIとして設定



今年度は自治体と協力して「使用済み食用油(SAF)の回収」・「フードバンク」・「生物多様性保全に関する啓蒙活動」のブースを出展。来年度も継続してKPI達成を目指す

持続可能な航空燃料SAFの原料となる使用済み食用油の回収



- 東京都環境局様と神戸市環境局様にブース出展いただき、SAFの原料となる使用済み食用油の回収を実施

使用済み食用油の回収量：計78.5L

食品ロス削減



- 仙台市環境局様にブース出展いただき、フードドライブを実施。来場者から食品を回収し、フードバンク団体を通じ生活困窮者支援団体等に無償で提供

フードドライブ寄贈量：6.8kg

生物多様性の保全に関する啓蒙活動



- 北九州市環境局様と大阪市様にブース出展いただき環境啓蒙活動を実施

ブース来場者計128名 (大阪を除く)

27年に横浜市で開催されるGreen×EXPOとリーグワンと共に包括連携協定を締結。 ラグビー界全体で持続可能な社会と自然環境実現に関する施策を推進

GREEN EXPO2027・リーグワンとの包括連携協定締結による環境サステナビリティ推進



- JRFUは、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会および一般社団法人ジャパンラグビーリーグワンと共に持続可能な未来の社会づくりを目指す包括連携協定を締結

包括連携協定に基づく具体的な取り組み

■ 「Blooming RING Action」への参加

- GREEN×EXPO 2027を応援する合言葉「We are Blooming」と応援の意を込めた「Bloomingポーズ」で撮影した写真を選手やチーム関係者が投稿するSNSキャンペーンの実施。各チームの環境アクションも併せて発信

■ 試合会場等におけるGREEN×EXPO 2027情報発信

- 日本代表戦の試合会場内における告知ブースの設置やプロモーション映像の紹介。地球、自然、植物とスポーツの相互関係を考える機会の創出

■ 日本ラグビーを象徴する桜の木の植樹式実施

- 2026年に100周年を迎える日本ラグビーのエンブレムである桜をGREEN×EXPO 2027会場となる旧上瀬谷通信施設（横浜市）敷地内に植樹するレガシープログラムの実施（2026年度実施予定）

参考：今年度の主な環境サステナビリティの取り組みは以下

JRFU主催代表戦における主な環境サステナビリティの取り組み

日時	会場	取り組み	結果
2025.06.28	秩父宮ラグビー場	東京都環境局様にブース出展 SAFの原料となる使用済み食用油の回収	使用済み食用油約41L回収
2025.07.05	ミクニワールドスタジアム北九州	北九州市環境局様にブース出展 環境啓発活動を実施	ブース来場者67名
2025.07.12	ノエビスタジアム神戸	神戸市環境局様にブース出展 SAFの原料となる使用済み食用油の回収	使用済み食用油約21.5L回収
2025.07.19	ミクニワールドスタジアム北九州	北九州市環境局様にブース出展 環境啓発活動を実施	ブース来場者数61名
2025.07.26	秩父宮ラグビー場	東京都環境局様にブース出展 SAFの原料となる使用済み食用油の回収	使用済み食用油約3L回収
2025.08.30	ユアテックスタジアム仙台	仙台市環境局様にブース出展 フードドライブを実施	フードドライブ寄贈量6.8kg
2025.10.18	ヨドコウ桜スタジアム	大阪市様にブース出展 環境啓発活動を実施	—
2025.10.25	国立競技場	東京都環境局様にブース出展 SAFの原料となる使用済み食用油の回収	使用済み食用油約13L回収